

令和6年度技術士2次試験（口頭試験） 報告

1. 口頭試験概要

- 技術部門：建設部門
- 選択科目：道路
- 試験日時：令和6年12月8日（日）11:10～11:30
- 試験会場：TKP 品川カンファレンスセンター7階（京急第二ビルミーティングルーム 7I）

2. 口頭試験当日までの流れ

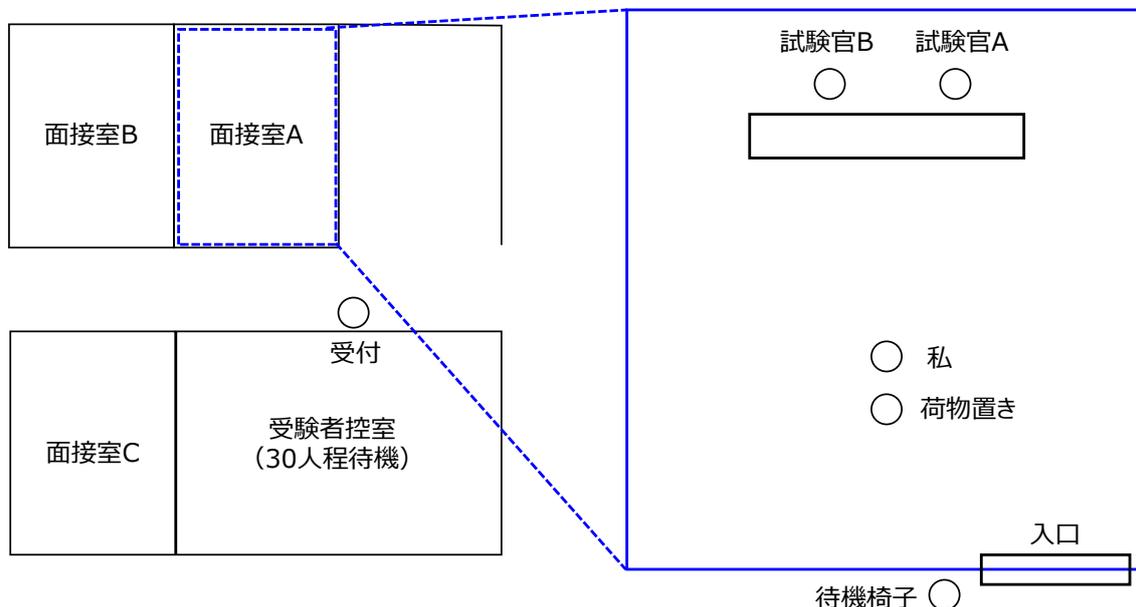
- 10/29：筆記試験合格発表
- 11/8：口頭試験のご案内はがき受領
- 11/18：社内模擬面接①
- 11/22：社内模擬面接②
- 11/25：社内模擬面接③
- 11/25：社内模擬面接④
- 11/27：社内模擬面接⑤
- 12/5：社内模擬面接⑥

3. 試験当日の流れ

- 12/7（前日）：飛行機で広島から羽田へ移動（品川駅付近のホテルで前泊）
- 12/8 10:00：ホテル出発
- 10:20：会場到着、受付へ
- 10:25～11:05：受験者控室にて待機、想定QAのおさらい
- 11:05：試験室前へ移動
- 11:08：定刻2分前に試験開始
- 11:28：試験終了
- 会場を後にし、近くの喫茶店で質問事項を書き起こし

4. 会場の様子

○面接会場と面接室のレイアウト



5. 試験官

- ・試験官 A : 40 代後半～50 代前半、質問メイン担当、語り口は優しく、顔きあり
- ・試験官 B : 40 代後半～50 代前半、サブ・メモ担当、試験官 A に比べて顔きあり

6. 試験全体を通しての所感

- ・試験官 A が 9 割近く質問、試験官 B は回答に対するうなずきと、何かメモを書き込んでいる印象 (試験官 A には「技術士試験監督??」と書かれた名札がありました)
- ・詳細業務の問の中で、各コンピテンシーを確認している印象で、時折技術的な質問も見られました。
- ・各設問、回答後にうなずいている様子があり、試験官 B は特に反応が大きい印象でした。
- ・質問構成は、詳細業務の深堀質問、コンピテンシーが 7 割程、倫理・継続研鑽が 3 割。
- ・開始前の雑談は特になく、最初の質問が受験動機に関する質問でした。
- ・入室は開始時刻 2 分前、試験時間は 20 分でした。質問項目が予想していたより多い印象で、簡潔な説明を意識して回答しましたが、所々やや冗長だった点がやや気になります。
- ・試験時間を通して、終始和やかな印象で、時折「あ～そうなんですね」と声を上げて大きくなずき様子がうかがえ、精神的に助けられました。
- ・試験開始前は控室に 30 人ほどの受験者が待機、試験室は 7 階のフロアに 3 部屋ほどありました。
- ・試験終了後は後ろの受験者はおらず、他の受験者が終わっているかまでは把握できませんでした。

7. 面接内容

※順番が多少前後している場合がありますが、ご容赦ください。

★受験動機

Q.今日はよろしくお願ひします。まあまだお若いということなのですが、今回技術士を受験した動機を教えてください。

A.はい。技術士は、技術力の裏付けとなる資格になり、社内・社外で信頼を得ることができ、仕事の幅をより広げることができると考え、今回受験しました。

★詳細業務の説明

Q.詳細業務について3分程でいいので説明をお願いします。(説明の途中にうなずき、試験官A・Bが何かを書き込んでいる)

A. (用意した回答で3分程度で説明)

★コミュニケーション・リーダーシップ,詳細業務の深堀質問

Q.詳細業務における社内の立場、体制はどうでしたか？

A.はい。主担当技術者として、発注者の窓口となって業務を執行しています。また、管理技術者や後輩社員、派遣社員への中間に立って、作業の進捗状況や作業指示などを行っています。

Q.発注者とのコミュニケーションは具体的にどのように行いましたか。また工夫した点ありますか？

A.はい。調整事項が多い業務であったため、メールや電話等でこまめに連絡を取り合いながら意識疎通を図りました。特に発注者が欲している情報や課題は何かを打合せ等で意識して聞き出し、議事録を作成してお互いの意識の共有を図っています。疑問点や不明点等があれば、都度メールや電話で補強するよう努めたほか、コロナ渦の業務で対面での打合せが難しい状況でしたので、WEB打合せ等で柔軟に対応しました。⇒説明の途中にうなずき、何かを書き込んでいる

Q.米子～境港間の社会情勢に変化があったとのことですが、その具体例をもう少し聞かせてください。

A. はい。平成18年の凍結以降、港湾整備によるコンテナ取扱量の増加や、企業立地が進展しているほか、米子市街地では道路渋滞や交通事故が発生しており、年々増加傾向にあるなど情勢が変化しています。

Q.KDDIのデータなのですが、具体的にどういったデータになりますか？

A. はい。20歳以上のauスマートフォン契約者のうち、位置情報の利用許諾を得たユーザーのGPS位置情報データを使用し、任意の地点への訪問人数等を把握できるデータです。

Q.商用車プローブのデータはどういった分析を具体的にされましたか？

A. はい。広域的な物流活動を行う企業に対してヒアリングを行うため、企業抽出のためのツールとして、

境港を発地とした商用車を対象に、着地のエリアを抽出しました。

Q.2つのデータを提案したのはご自身ですか？

A. はい。提案内容は管理技術者や先輩社員と調整・相談しながら、私が主体となって提案しました。

Q.詳細業務において、リーダーシップはどのように発揮されましたか？

A. はい。客先や利害関係者の窓口として、道路整備に関する必要性について、現状の課題や要望を聞き出し、こまめに連絡を取り合いました。物流や観光、災害、医療、環境など幅広く課題や現状を取りまとめ、特に、KDDIにおける観光客の周遊状況の分析や、物流企業へのヒアリング調査により、定量的・定性的の両面から、道路整備の必要性を補強しました。道路整備の必要性に関する委員会に向けた調整を都度行い、最終的な合意を受け、委員会にて道路整備の必要性に関して示すことが出来ました。⇒説明の途中にうなずき、何かを書き込んでいる

Q.コミュニケーションで何か失敗した事例があったら教えてください。

A. はい。工程管理が出来なかった点です。委員会資料を提出する機会が何度かあったのですが、発注者より急ぎの提出が求められ、円滑な対応が出来なかったことがあります。⇒工程管理で大きなうなずき、何かを書き込んでいる

Q.その失敗を次にどう活かしましたか？

A. はい。チーム内ではこまめにミーティングを行い、作業進捗や打合せの日程をお互い確認できるようにしました。また、派遣社員との共有のスプレッドシートを作成し、作業項目や工程を管理することで、漏れないよう進めました。⇒スプレッドシートに大きなうなずき、何かを書き込んでいる

Q.詳細業務で発注者と意見が異なる場面があれば、具体的に教えてください。

A. はい。道路整備の必要性の資料を作成するうえで、資料の見せ方について難儀した点です。災害分野で道路の必要性を示すうえで、地域内の洪水や液状化リスクを示すだけでは、必要性として伝わらないと発注者から指摘を受けました。そこで、今年発生した能登半島地震の事例を参考に、半島で道路が寸断され孤立したことを受け、災害時にもリダンダンシーが発揮できる道路ネットワークの形成を通して、道路整備の必要性を示し、発注者を説得しました。⇒能登半島地震の事例でうなずき

★評価・マネジメント

Q.詳細業務については、ご自身でどのように評価していますか？またそこから他事例へ活かした内容があれば教えてください。

A. はい。道路整備の必要性について、ポイントを押さえて観光、物流、災害、医療、交通など俯瞰的に幅広い項目で整理できた点、またデータ分析の面とヒアリング調査の地域の声の双方から、道路整備の必要性が補強できた点が評価できます。現在も詳細業務は継続して受注しています。

また、他事例へは、類似の業務で道路整備の必要性について検討しており、今回の知見を活用しています。

Q.これまでの経験の中で、人員に関するマネジメントについて業務執行上意識していること、具体的に実施していることはありますか

A. はい。先程も説明させていただきました、派遣社員との共有のスプレッドシートを作成し、作業項目や工程を管理することで、漏れのないよう進めました。また、急ぎの作業や作業ボリュームが多い際は、他チームから応援にきていただきました。他チームと調整しピーク時をずらすことで、他のチームに影響を与えないようにしました。

Q.社内での照査についてはどうでしたか（この設問のみ試験官 B が質問）

A. はい。社内でベテランの照査技術者を交えた第三者照査会を発注者との打合せ前に行い、指摘事項をもとに成果に反映しています。また、社内の計画系分野において、照査すべき評価項目を作成しており、それを基にチェックも行っています。⇒試験官 B が大きくなずく

★その他の業務について

Q.その他の経歴に書いてある業務は、どのようなことをしていたか簡単にいいので教えてください。

A. はい。経歴書 1 つ目の業務では、ETC2.0 データを活用した渋滞対策業務、経歴書 2 つ目の業務では、事故率（死傷事故率）が高い箇所における、事故対策業務に従事しておりました。

Q.これまでの経歴を見るとデータを扱う業務が多い感じがしますが、データを取り扱う際に注意していることはありますか？

A. はい。ビッグデータとして ETC2.0 等がありますが、あくまでサンプルであるという点を意識して、データを鵜呑みにしないようにしています。例えば地方では ETC2.0 の普及率は 14%と低いとため、ビッグデータだけでなく、現地調査やその他データを合わせて利用する必要があります。

★技術者倫理

Q.技術者倫理で業務上、最も重要だと思うのは何ですか？

A. はい。公益確保の責務を最も大切にしています。発注者の要望や地域住民の要望もありますが、中立的な立場で客観的なデータに基づき、適切に判断するよう心掛けています。

Q.データの改ざんが見つかった場合、社外・社内でどのように対処しますか。

A. はい。社外では技術者倫理に反する行為になるため、改竄には応じないよう対応します。社内では、何故改竄が起こったか原因の究明を行い、社内でも共有し、再発防止策を検討します。

★継続研鑽

Q.継続研鑽で何か取り組まれていることはありますか

A.はい。社内・社外で実施される講習会や勉強会、さらにシンポジウムなどへ参加を通して技術研鑽を図っています。また最近トレンドである、自動運転や画像解析技術などに関連する話題については、幅広く収集するよう意識しています。

Q.後輩社員へ向けて、指導面で意識していることはありますか？

A.はい。詳細業務で工程管理の甘さが浮き彫りになったため、そうならないよう基本的な事ではありますが、作業スケジュール表を作成してもらうことで、作業の進捗状況の見える化を図れるよう、教えています。

Q.最近の交通に関するトレンドで気になっていることはありますか？

A. はい。画像解析技術のAIの話題について、情報収集しています。実際に事故対策業務において、車両のヒヤリハットや危険挙動を画像解析で読取を行っており、目視に比べ読取作業の省力化や、チェック漏れ等が期待されるため、そのあたりの知識や事例を意識して、情報収集に努めています。

⇒AIで大きなうねり、何かを書き込んで

Q. 分かりました、ありがとうございます。これで試験を終了します。お疲れさまでした。

A.ありがとうございました。

以上